

ACANTHUS NEWS



平成15年 2003.10

月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第83号

仕事の幅を広げて職務に精励を 林学長，事務局職員を前に2期目のあいさつ

TOP NEWS



9月22日，林勇二郎学長の2期目の任期がスタートし，24日，林学長は事務局職員を前に「法人化後は，教員と事務職員が対等に大学の運営に携わることが一層必要。仕事の幅を広げて職務にあたってほしい」と再任のあいさつを行った。

林学長の2期目の任期は，国立大学法人への移行による特例規程により，本年9月22日から平成20年3月31日までの4年半となり，林学長は「国立大学法人金沢大学」の初代学長として，法人化後の本学の舵取りを行うこととなる。

事務局職員を前にあいさつする林学長
＝事務局大会議室

9月期学位記授与式

9月30日，9月に卒業・修了する学生の学位記授与式が挙行され，学部生31名，修士（博士前期）課程6名，博士（博士後期）課程65名の計102名に学位記が授与された。全学の卒業生・修了生を一同に集めて，9月の学位記授与式が行われたのは今回が初めて。



告示を述べる林学長と卒業生ら(左下)
＝事務局大会議室

巻頭言

金沢大学の新たな出発に向けて



学 長
林 勇二郎

大学は教育、研究、社会貢献を活動の柱としている。国立大学は必ずしも目先の採算にとらわれず、中長期の視点でこれらの責務をこなすことで国民の付託に応えてきた。設置以来55年の歴史を刻む国立大学であるが、これまで依拠してきた法律、国の機関としての設置形態、国立学校特別会計の仕組み、さらには国家公務員としての雇用形態などを変えることで、来年4月から法人に移行する。国立大学法人を一言で表現するのは難しいが、教学を預かる大学が、国の出資財産と一定の権利能力をもって、民間的な経営を含む様々な法人活動を国家的な立場で実施する機関と行うことができよう。

金沢大学は、日本海側にある基幹的な総合大学として、我が国の高等教育と学術研究の発展に大きく貢献してきた。法人化後も学問の自由に立って大学の総合性を打ち出し、地域と世界に開かれた情報発信の拠点形成に向けて足腰の強化を図らねばならない。地方の大学にとっては、特に学生の受入れと外部資金の獲得が課題であり、このための熾烈な競争が国内外の大学間で展開されることになる。

本学は今、5つの作業部会のもとで中期目標・計画、運営組織、人事労務、財務会計等について、国立大学法人金沢大学の制度設計を取りまとめつつある。既存の8学部を3つの学域に再編・統合する計画は、目標とする「教育を重視した研究大学」を実現するうえでの組織の改変であり、そこでは教育の活性化に繋がる定員措置や、研究に対する予算の重点配分の方策も検討されている。運営組織や制度は法定に基づき大きく変わることになる。しかし、大切な

ことは法人化によってどう変わるかではなく、大学法人を創るために自らどう変えるかであり、それには大学がレゾン-テートルとする社会のための大学 university for society を基本としなければならない。

大学における研究は本来は基礎的なものであり、それは応用・開発研究を経てやがて実用に供されてきた。しかし、産学や産学官連携が進められるなかで、短期的な研究成果が期待され、その一方で先端医療や技術に直結する探索型研究が一つの流れとなっている。本学で創造される知的成果を継続的に社会に還元するには、長期にわたる基礎研究と短期的な実用研究を健全な競争環境のもとで共存させねばならない。教育においては、18歳の正規生に加えて多様な学生を受入れ、社会が必要としている人材を輩出するための組織や制度を整えねばならない。そして、大学が知の拠点として社会基盤を確立するためには、研究成果や人材を供給するだけでなく、それらのフィードバックを含めた目に見える地域貢献の活動こそ重要になるはずである。

学長の再任期間は4年半だが、新学長としての役割は16年度に始まる法人の長であり、この半年はそのための助走である。国立大学法人金沢大学の船出に舵を取るようになるが、大学改革の荒波を乗り切るには全学的な協力体制が必要であることは言うまでもない。それは教員と職員の良きパートナーシップであり、学部・大学院の教育組織や研究所・センター等のそれぞれの責務に立った役割分担であり、そして何よりも学生の視点に立った行動である。本学が社会のための大学として強い結束力と行動力、さらには高い意識をもって新たに出発するにあたり、全学構成員の協力を期待したい。

トピックス

法人化後の大学像が明らかに －第8回運営諮問会議－



新しい大学の全体像が説明された運営諮問会議
＝金沢市内のホテル



9月5日、第8回運営諮問会議が開催され、国立大学法人金沢大学の制度設計の基本方針（案）が示された。会議では、法人化準備委員会委員長である金子勲副学長から、同大の基本理念・目標・方針、運営組織、中期目標・計画、人事管理及び財務会計の基本方針案を説明。委員からは、法人化を契機として、教育、研究及び社会貢献等の活動を一層活性化するように期待する意見が出された。



チェコの文化を紹介する石田氏
＝9月5日、金沢市内のホテル

市民らにチェコの文化を紹介 －第2回金沢大学フォーラム－

運営諮問会議に先立ち、市民、大学関係者ら100名余りが参加して、第2回金沢大学フォーラムが開かれ、同会議委員で前チェコ大使の石田寛人氏が、「チェコで暮らす一律儀でシャイな人々との交わり」と題して講演した。石田氏は大使時代の体験から、「チェコは東欧の小国でありながら、自らの文化、言葉を大切に、情報発信している」として、本学も自らを地球の中心に据え、創造的学術情報発信が必要と説いた。

目次

仕事の幅を広げて職務に精励を 林学長、事務局職員を前に2期目のあいさつ	1	留学生、葉の製造過程など見学	8
9月期学位記授与式	1	新任部局長	9
金沢大学の新たな出発に向けて	2	日本工学教育協力賞	9
法人化後の大学像が明らかに－第8回運営諮問会議－	3	日本動脈硬化学会賞	9
市民らにチェコの文化を紹介 －第2回金沢大学フォーラム－	3	フォーミュラ研6位入賞	9
法人制度設計の基本方針を教職員に説明	4	バスケット部、招待試合で小中高生指導	9
学際科学実験センター設置記念フォーラム	4	杜の里まつりで練習成果を披露	9
今の学生は何を考え、何を求めているか －第6回教養教育全学研究会－	4	法学部教員、学外で実務研修	10
ノーベル賞受賞者が特別講義	5	留学生の危機管理を学ぶ	10
英語教育はいかにあるべきか －北陸地区国立3大学外国語教育研究会－	5	ミニ講演 「アウシュヴィッツの悲劇はいかにして起こったか」	11
第39回日本胆道学会学術集会	5	後期授業に向けてTA研修	11
金沢大学知的財産本部とは？	6	教室系技術職員が技術交流	11
いしかわシテイカレッジ開講	8	公開講座	11
Webによる成績評価報告を開始	8	角間の水田で稲刈り 一角間の里山自然学校	12
		実験動物に感謝	12
		消火技術を競う	12
		編集後記	12

9月のニュース

法人制度設計の基本方針を 教職員に説明

全教職員を対象に法人化後の「国立大学法人金沢大学」の制度設計の基本方針（案）に関する説明会が、9月24日から30日、各キャンパスで計5回にわたり行われ、延べ1,308人の教職員が参加した。説明会では、法人化後の基本理念・目標・方針、運営組織、中期目標・計画、人事管理及び財務会計の各課題について基本方針案が示された。

なお、今後も教職員に対する説明会を開催して教職員の理解を深め、また、学生にも順次説明を行っていく予定。



多数の教職員を前に説明する林学長
=9月24日、総合教育棟A1講義室

学際科学実験センター設置記念フォーラム



あいさつする山口和男センター長
=医学部記念館

9月24日、学際科学実験センターは、4月に設置した同センターに対する学内外の理解を深める目的で、文部科学省、石川県、金沢市の関係者らが出席する中、設置記念フォーラムを開催した。

フォーラムでは、これまでの活動に加え、組織の統合を活用した幅広い研究支援、独創的、横断的プロジェクト研究の実施、シンポジウムなどによる研究成果の発表、地域への貢献などにより、活動内容を広げていくことが報告された。

式典の後には、(株)日立製作所基礎研究所の小泉英明主管研究長、かずさDNA研究所の大石道夫所長による記念講演と記念祝賀会が行われた。

今の学生は何を考え、何を求めているか — 第6回教養教育全学研究会 —

9月9日、「学生の実像と大学教育の方向性を考える」をテーマに、第6回教養教育全学研究会が金沢市内のホテルで開かれ、教職員、学生のほか、北陸3県の大学、高専、高校、企業などから約120名が出席した。

研究会では、北陸先端科学技術大学院大学の示村悦二郎学長が「学生は教師を見ている」と題して講演し、^{しんし}真摯に学生に接する必要性を強調した。

続いて、教員と学生によるシンポジウムが行われ、教員からは現代若者像を認識した上での支援の必要性が、学生からはシラバスや評価基準への注文などが報告され、意見交換が行われた。



講演する示村学長



教員と学生によるシンポジウム

ノーベル賞受賞者が特別講義

9月26日、医学部生、医学系研究科院生らを対象に、米国国立衛生研究所ニーレンバーグ博士による特別講義が行われた。同博士は遺伝子に含まれる情報を解明した功績により、1968年のノーベル医学生理学賞を受賞しており、講演では、最先端の神経科学研究の成果を紹介。学生らはノーベル賞受賞者の講演を熱心に聴講した。講演後には、医学系研究科の教員らと世界的研究拠点形成に向けた方策や研究の方向性について意見を交した。



講演するニーレンバーグ教授
＝医学部十全講堂

英語教育はいかにあるべきか －北陸地区国立3大学外国語教育研究会－



各大学からの報告をもとに議論する出席者ら
＝総合教育棟大会議室

9月25日、富山、福井、金沢の3国立大学の外国語教育担当者が英語教育の在り方を議論しようと、外国語教育研究会を開催した。

研究会では、3大学の英語教育担当教員から実用英語への要望、能力別クラス分け、4年一貫教育の必要性など英語教育における課題が報告され、技術的、人的制約の中で、実用的な外国語能力の向上を望む社会の要請や学生の要望に応える外国語教育をいかに構築するかに議論が集まった。

第39回日本胆道学会学術集会

9月18、19日、金沢市内のホテルを会場に、第39回日本胆道学会学術集会（会長：金沢大学医学部保健学科永川宅和教授）が開催され、約600名の研究者、医療従事者らが参加した。学会は「更なる飛躍を目指して」をテーマに、パネルディスカッション、シンポジウムなどが行われ、肝胆膵外科手術のあり方や胆道疾患の診断、治療について議論が交された。



開会式であいさつする永川教授
＝9月18日、金沢市内のホテル

特集

金沢大学知的財産本部 とは？

金沢大学の教育及び研究の成果を知的財産として効果的に発掘及び管理することと、知的財産に係る技術移転を積極的に促進させることにより、産業及び社会の活性化に貢献することを目的として、本年7月に設立されました。

略称は、知財本部です。

知的財産本部
(共同研究センター内)



業務内容と組織構成

【業務内容】

- 知的財産戦略の情報収集及び企画立案
- 知的財産に関する研究及び教育
- 知的財産ネットワークの充実及び管理
- 知的財産及び研究成果物の管理
- その他知的財産本部の目的達成のために必要な事項

【組織構成】

本部長、副本部長、本部員によって、構成されています。

ごあいさつ

知的財産本部の発足にあたって

知的財産本部長 村上 清史
(学長補佐・がん研究所教授)



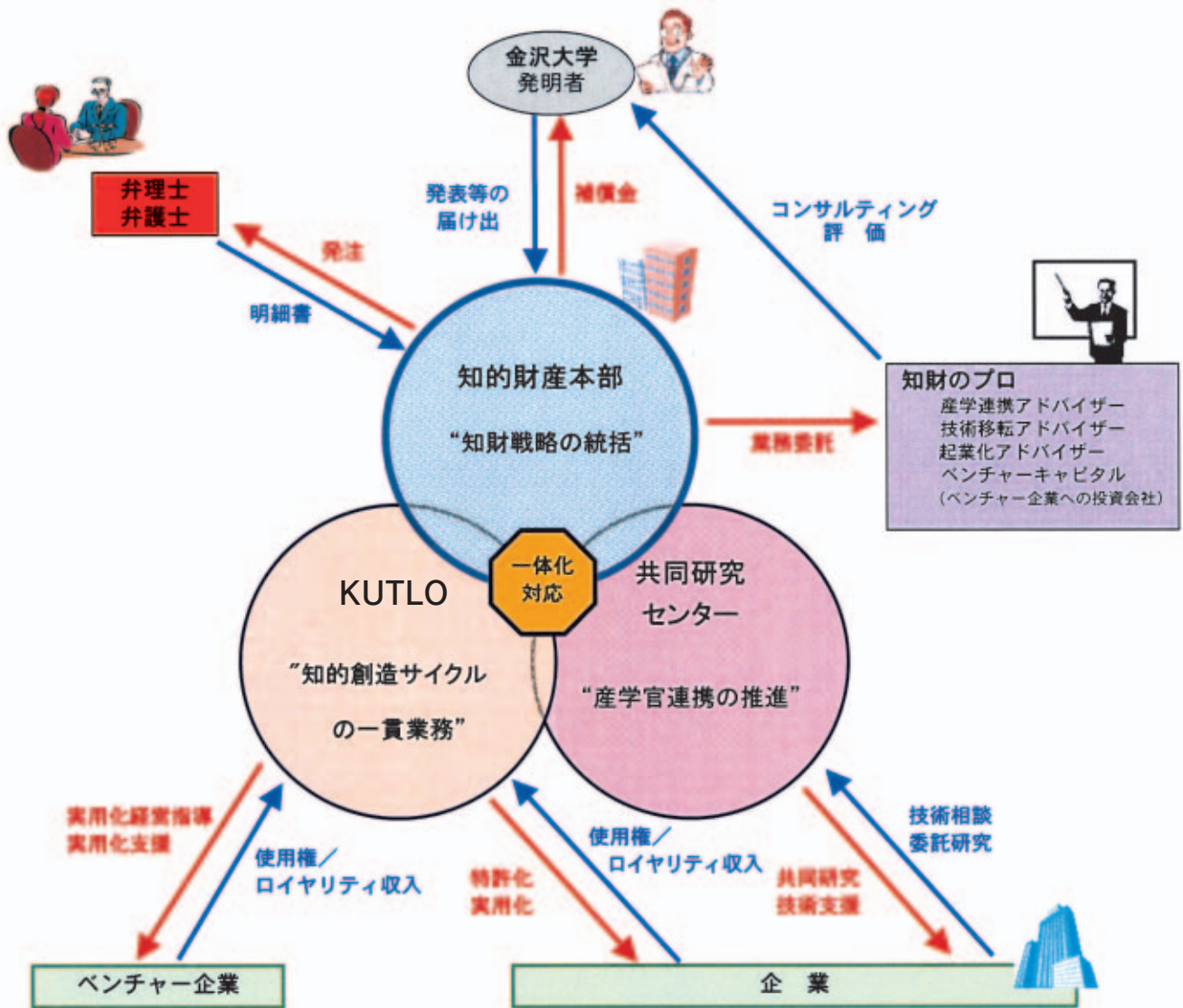
知的財産基本法が進める「知的財産立国」の方向は、知の源泉である大学に、研究成果を知的財産として発掘、保有、活用することを求めています。この流れの中で、金沢大学は平成16年度から知的財産権を機関保有する方針を定めました。マテリアルと総称される研究成果有体物についても、国立大学として初めて機関保有することを本年7月に決定しました。これらの知的財産活動を進めるために知的財産本部が発足しました。

知的財産活動は、優れて創造性の高い基礎と応用分野の研究活動を前提に、研究成果を知的財産として確保し、社会や市場が求める技術革新のシーズとして技術移転を進めることです。技術移転については、幸い、(有)金沢大学ティ・エル・オー(略称KUTLO)が、金沢大学の技術移転指定業者(承認TLO)として、本年から業務を開始しています。知的財産本部は、KUTLOと一体となって知的財産活動を進め、学術の府としての基本的な使命を尊重しつつ、技術移転にあたっては民間経営の基準で効率的な運営を目指します。大学とTLOが一体となる活動は、特色ある知的財産戦略として金沢大学が評価された点でもあります。

しかし知的財産活動は、大学の新しい機能であり未知の領域です。教職員のご協力なしに進めることはできません。よろしくお願い申し上げます。

知的財産本部モデル

知的財産本部（知的財産戦略統括）・KUTLO（技術移転機関）・共同研究センター（産学官連携の推進）の三者連携によるOne Stop対応が可能です。（注）本モデルは、平成16年度から適用されます。



本学知的財産本部整備事業は、文部科学省より「特色ある知的財産管理・活用機能支援プログラム」の対象に決定されました。（平成15年7月）



「特色ある知的財産管理・活用機能支援プログラム」とは？

大学知的財産本部整備事業に応募した機関の構想の中から、文部科学省が、独創的で注目すべき機能や手法を含むものを選定して、その特色ある知的財産の管理・活用機能に関して予算の範囲内で支援を行うプログラムのことです。

問合せ先

金沢大学知的財産本部

〒920-1192 石川県金沢市角間町（共同研究センター内）

TEL：076-264-5035 FAX：076-234-4016

e-mail：chizai@ad.kanazawa-u.ac.jp

9月のニュース



他大学の学生も出席して開講した授業
=10月4日、いしかわシティカレッジ

いしかわシティカレッジ
開講

石川県内の17高等教育機関が学生の単位互換を促す「いしかわシティカレッジ事業」が9月29日スタートし、県広坂庁舎（旧県庁）で講義が開始された。講義は広坂庁舎の「いしかわシティカレッジ」をはじめ各大学で行われ、他大学の科目も在籍大学の単位として認められる。また、科目等履修生制度等により社会人も受講できる。本学からは、13の教養の科目を提供しており、この事業の活用により単位互換や学生交流の進展が期待される。

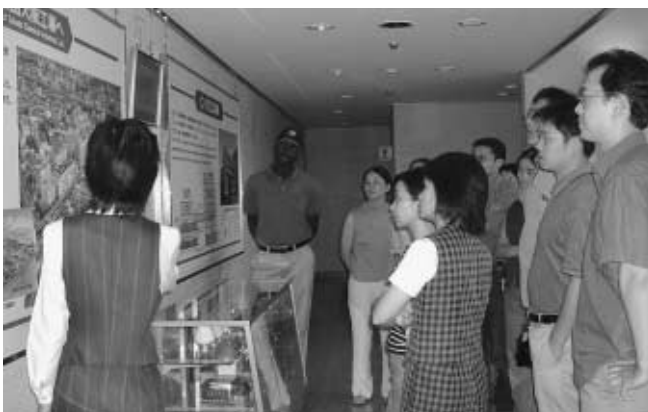
Webによる
成績評価報告を開始

今年度から、すべての学生が履修する科目でWeb版成績報告システムによる成績評価報告を行い、このほど15年度前期分が完了した。評価を保留している科目も対象となること、従来の用紙による評価報告も残したことで、総合メディア基盤センターのVPN通信により学外からも利用できることなどの利便性を図っている。

評価報告はスムーズに進み、利用者からも概ね好評であったが、今後も使い勝手の向上や時間短縮を図ることを予定している。



各研究室から行う成績評価



薬の製造過程の説明を受ける留学生
=9月18日、武田薬品工業株式会社

留学生、薬の製造過程など見学

9月18日、19日の両日、薬学部留学生実地見学旅行が実施され、薬学部と自然科学研究科の留学生12名が、武田薬品工業株式会社、大阪城、ユニバーサルスタジオジャパンを見学した。日本有数の製薬企業の工場では、固形剤の製造過程を見学し、留学生からは様々な質問が出て有意義な見学となった。

新任部局長



工学部長
岡島 厚
任期：平成15年9月22日
～平成17年3月31日

日本工学教育協会賞



9月3日、工学部山崎光悦教授（左）、同山田実教授（中）、同畑朋延教授（右）は日本工学教育協会から論文・論説賞を受賞した。論文「卒業生による教育目標のアウトカムズ評価法」が工学教育の発展に寄与したとして評価されたもの。

日本動脈硬化学会賞



9月27日、医学系研究科馬淵宏教授は日本動脈硬化学会から学会賞を受賞した。高コレステロール血症の研究が評価されたもの。



入賞したフォーミュラ研究会のメンバー
=9月12日、富士スピードウェイ

フォーミュラ研6位入賞

9月10日～12日、手作りのレーシングカーの性能を競う第1回全日本学生フォーミュラ大会が静岡県の富士スピードウェイで開かれ、本学から参加したフォーミュラ研究会が総合成績6位に入賞した。大会には全国の大学等から17チームが参加し、デザイン、コスト、旋回・加速性能、耐久走行などにより総合判定された。

バスケット部、招待試合で小中高生指導

バスケット部が小学生を招いて招待試合を行う第10回ひまわり交歓大会が、8月30、31日角間キャンパス体育館で行われ、男子18チーム289名、女子19チーム292名が参加した。ひまわり交歓大会は、同月行われた中・高校生の招待試合とともに県内の学生バスケの技術向上と、部員の教育学部生のインターンシップに役立っている。



招待試合で審判する部員

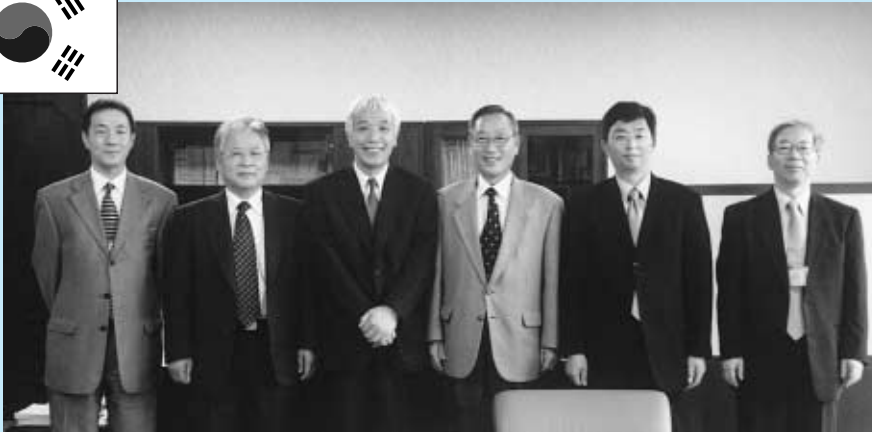


"杜の里"に軽快に流れたMJSの演奏

杜の里まつりで練習成果を披露

9月27日、浅野川通り沿線で行われた「杜の里まつり」に、本学からYFA（ロック）、MJS（ジャズ）、JMC（ジャグリング等）の3つのサークルが参加し、日頃の練習成果を披露した。YFAとMJSの演奏が秋の夜空に響き渡り、JMCの妙技には観客から拍手喝采があった。

学長室から



9月19日、大学間交流等を協議するため来学した、右から3人目、韓国湖西大学校姜一求副総長、同2人目、同鄭鎮度工科大学教授

法学部教員、学外で実務研修

法科大学院の設置に向け準備を進めている法学部は、法曹教育に携わる予定の教員に法の現場を体験させようと学外で実務研修している。9月までに、裁判の傍聴、公証人役場、法務局、石川県警本部の見学、法律事務所での紛争処理の実務経験などを行った。10月以降も警察署、手形交換所などの現場で研修を積み、法科大学院での法曹教育の充実に向けて準備を進めている。



通信司令室で説明を受ける法学部教員
＝石川県警本部

留学生の危機管理を学ぶ

石川地域留学生交流推進会議主催による平成15年度留学生担当者研修会が9月9日開かれ、石川県内の10機関から20名が受講した。今回の研修会は、留学生の危機管理をテーマに「入管から見た留学生問題」「留学生をめぐる危機的状況への対応」「感染症への対応－SARSを中心－」の3つの講義の後、留学生の話聞くためのワークショップ、事例研究が行われ、最近増加傾向にある留学生の危機の防止、対策を学んだ。



事例研究で班別討議する受講生
＝石川県留学生交流会館

研修, 大学開放

ミニ講演

「アウシュヴィッツの悲劇はいかにして起こったか」

○月 日：9月20日

○講 師：野村真理経済学部教授

○場 所：金沢大学サテライト・プラザ

○テレビ会議システムによる「金沢大学遠隔講座」受信会場
：輪島市文化会館，寺井町立図書館

○来場者：82名



後期授業に向けてTA研修

9月24日，教養教育機構は後期の教養の科目を担当するティーチング・アシスタント（TA）を対象とした研修会を開き，31名が出席した。研修会では，同機構で作成した「TAマニュアル」を中心に，関係教員から本学の理念・目標，教養教育の目的・実施体制，TAの制度・任務など，TAが教育補助業務を行うに必要な知識，心構えが説明された。



TAマニュアルにより説明
＝総合教育棟A1講義室

教室系技術職員が技術交流

教室系技術職員の資質向上と，相互交流を目的に，9月29日，30日の2日間，平成15年度石川県地区国立学校教室系技術職員研修が行われ，北陸先端大，石川高専，本学から10名の技術職員が受講した。

研修では，受講生による技術発表，先輩による経験談を含めた講義，専門教員による講義が行われ，活発な技術交流となった。



受講生による技術発表
＝9月29日，工学部秀峯会館中会議室

公開講座



ドイツの生活文化 ―日本との相違―
＝9月6日，大学教育開放センター大講義室



おとなと子どもと一緒に楽しむ化学実験
＝9月13日，理学部化学科学生実験室2

角間の水田で稲刈り

—角間の里山自然学校—

9月28日、角間の里山の北谷で稲刈りをした。今年の稲の生育は全国的に悪いようだが、北谷の稲は春から里山メイトが丹誠込めて育てたおかげで稲穂を重そうに垂れていた。稲に鎌を入れると、ザク、ザクと気持ちよい音が響く。1時間ほどで刈り取られた稲はすぐに脱穀。15kgの米になった。今年作ったのは「カグラモチ」という餅米で、稲刈りの後には「精米が終わったら里山メイトのみんなで餅つき大会をしたい」との声も聞かれた。



収穫を喜ぶ里山メイトたち

実験動物に感謝

9月25日、教育研究のための実験に供された動物に感謝するため、平成15年度実験動物慰霊祭が行われ、教職員、学生180名が献花した。



献花された慰霊碑
＝学際科学実験センター実験動物研究施設前

消火技術を競う

9月4日、金沢市防火協議会主催による平成15年消火技術競技大会が行われた。医学部附属病院から、一人操作屋内消火栓の部に1名、屋内消火栓の部に2チームが参加し、日頃の練習成果を発揮し、準優勝と敢闘賞を受賞した。



屋内消火栓の部に参加した看護部チーム
＝まめた簡易グラウンド

編 集 後 記

平成15年度も半分が過ぎ、来年4月の法人化まで6か月となりました。9月末までには各国立大学の「中期目標・中期計画（素案）」が提出され、10月1日には「国立大学法人評価委員会」がスタートしました。様々なところで「国立大学の法人化」「法人化後の国立大学」の文字を多く目にし、「いよいよ」の感を深くされているのではないのでしょうか。

本学では、9月22日に林学長の2期目がスタートし、9月24日から5回にわたり「国立大学法人金沢大学」の制度設計の基本方針（案）の説明会が行われ、本誌でもこのことが紹介されております。

今後も、皆様方のご協力により、本誌を通じて本学の様々な動きをお伝えしていきたいと思っております。ご支援よろしくお願ひします。
(総務部企画広報室長 太田 義興)

平成15年10月17日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5024
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピーズ))
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。